

研究・調査報告書

報告書番号	担当
219	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Heavy maternal alcohol consumption and cerebral palsy in the offspring. 母親の重度アルコール消費と生まれてきた子どもの脳性小児麻痺	
執筆者	
O'Leary CM, Watson L, D'Antoine H, Stanley F, Bower C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Dev Med Child Neurol. 2012 Mar;54(3):224-30.	
キーワード	
アルコール消費 飲酒 母親 脳性小児麻痺	
要 旨	
目的： 本研究の目的は、母親の重度アルコール消費と新生児における小児麻痺との関連を調査することである。	
方法： 疾病の国際分類に基づく全ての母親に関する記録である ICD-9/10(アルコール関連疾患コード 9 版/10 版)は、重度のアルコール消費を示し、人口集団ベースの健康と精神的な健康、薬物とアルコールに関する 1983 年から 2007 年までのデータセットを記録しており、この母親の子供は西豪州データ結合システムを通じて特定された。この暴露されたコホートでは、アルコール起因の疾病と母親の子供たち(対照群)を除き、母親と頻度結合された。脳性小児麻痺が発生したケースは西豪州脳性小児麻痺記録との結合を通じて特定された。分析は多変ロジスティック回帰により行われた。	
結果： 暴露群では 23,573 の出産(非アボリジニで 58.6%、アボリジニで 41.4%) があり、そのうち 292 症例で脳性小児麻痺が確認された。胎児期、周産期における脳性小児麻痺のオッズはアルコール関連診断が妊娠中に記録された母親を持つ非アボリジニの子供において上昇し (修正オッズ比 3.32; 95%CI1.30-8.48)、アルコール関連診断が妊娠 12 ヶ月前までに記録された母親を持つアボリジニの子供において上昇した(修正オッズ比 2.49; 95% CI 0.99-6.25)。新生児期以降における脳性小児麻痺になるさらに増大したオッズ比が、アルコール関連診断が記録された母親を持つ非アボリジニの子供において確認された (修正オッズ比 7.92; 95% CI 2.23-28.14)。	
結論： 非アボリジニの子供において、母親の重度のアルコール消費は胎児期、周産期における脳性小児麻痺の直接的な要因であり、新生児期以降の脳性小児麻痺になる間接的な要因である。アボリジニの子供においては関連が認められなかったので更なる調査が必要となるが、妊娠中の飲酒障害の確認不備と他の病因学的経路によるものと思われる。	